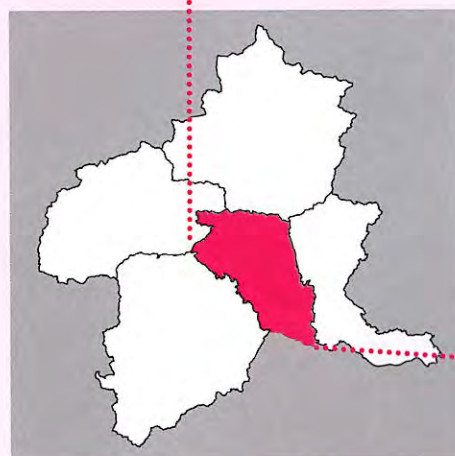


GUNMA AREA



AREA A

土木遺産位置分布図



① 赤城南面道路（旧赤城有料道路）	…18
② 坂東大橋	…20
③ 五料橋	…22
④ 福島橋	…24
⑤ 平成大橋	…26
⑥ 上毛大橋	…28
⑦ 敷島橋	…30
⑧ 三郷用水橋梁	…31
⑨ ささら橋	…32
⑩ 湯中子橋	…34
⑪ 吾妻川橋梁	…35
⑫ 沼尾川橋	…36
⑬ 利根橋	…37
⑭ 真壁ダム	…38
⑮ 赤城白川堰堤	…39
⑯ 潜下堰堤	…40
⑰ 天狗岩用水	…41
⑱ 群馬用水	…42
⑲ 女 堀	…44
⑳ 大正用水	…46
㉑ 前橋市の水道	…48
㉒ 白井宿	…50
㉓ 八木原の道しるべ	…52
㉔ 綾戸穴道	…54

① 啄木鳥橋（きつつきばし）	…194
② 寺沢川リハビリパーク	…194
③ 伊香保温泉の石段	…195

凡例

-  高速道路
 国道
 県道

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000（地図画像）を使用したものである。（承認番号 平17総使 第377号）

赤城南面道路(旧赤城有料道路) あかぎなんめんどろ (きゅうあかぎゅうりょうどろ)



愛称「白樺ライン」の由縁、白樺林を走る

概要

- 所在地 勢多郡富士見村小暮
～富士見村赤城山
- 路線名 県道 前橋赤城線
- 年代 昭和41年(1966)
- 主要諸元 延長21.1km 幅員7.0m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/200,000)

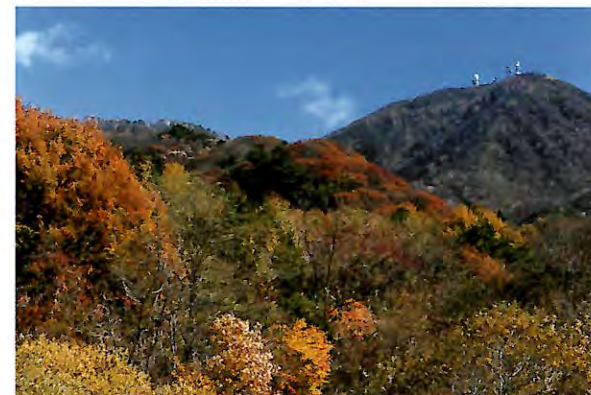
関連DATA



赤城山周辺に咲き誇るレンゲツツジ



「赤城山夏祭り」では大沼湖上で花火大会が催される



見応えいっぱいの地蔵岳の紅葉



冬。湖上にはワカサギ釣りのテントが並び

前橋市街地から県道4号前橋赤城線を赤城山方面に向かうと、富士見村小暮の交差点で大きな鳥居(赤城一之鳥居)に出会います。ここから赤城山までがかつての赤城南面有料道路でした。この有料道路は沿道地域の利便性の向上と赤城山周辺の観光開発を目的に、県内最初の県営有料道路として昭和39年(1964)に着工、昭和41年(1966)に完成しました。また、ルートの一部が県立赤城公園内の美しい白樺林の中を通ることから「赤城白樺ライン」とも呼ばれていましたが、平成7年(1995)に有料道路を廃止し、一般開放されることとなりました。

榛名山、妙義山と並び上毛三山の一つに数えられている赤城山は、群馬県の中東部に位置し、標高1,828mの黒檜山を最高峰に地蔵岳、長七郎山、見晴山などの中央火口丘を有する関東有数の複式火山で、火口原湖の大沼、火口湖の小沼、火口原には覚満淵のある大洞などがあります。「裾野は長し、赤城山」と上毛カルタに詠われるように、美しく長く伸びた裾野が特徴的な赤城山、山麓には古代の遺跡や古刹などの史跡が数多く点在しています。南麓周辺は交通網の整備に伴い、数多くのレジャー施設や温泉施設などが整備され、一大レジャーエリアへと発展し、変化に富んだ豊かな自然と相まって、四季を通じて多くの観光客が訪れています。

さわやかな高原のそよ風を受けながら、「白樺ライン」という愛称の由来となった白樺林を通り、きついヘアピンカーブを抜けると観光の中心として賑わいを見せる「大沼」、「覚満淵」を見ることができます。赤城南面道路については快適なドライブコースとしての面にはばかり目が向けられがちですが、昭和57年(1982)に北面有料道路が開通したことに伴い、赤城山周辺のみならず奥利根や日光方面へと繋がる広域観光ネットワークが形成されています。初夏には群生するレンゲツツジが咲き誇り、夏には覚満淵に爽やかな高原の風がそよぎ、秋には萌えるような紅葉が山々を覆い、冬には大沼でのワカサギ釣りやスケートなど、四季折々のレジャーが満喫できる赤城山周辺、是非一度は訪れたい観光スポットです。



小暮の交差点・赤城一之鳥居

坂東大橋

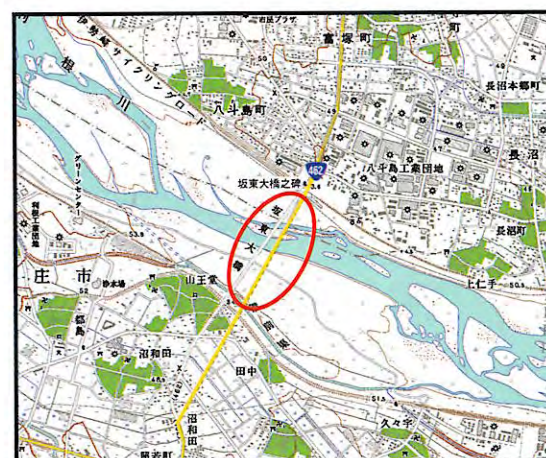
ばんどうおおはし



撤去途中の旧橋

概要

- 所在地 伊勢崎市八斗島
～埼玉県本庄市山王堂
- 路線名 国道462号
- 年代 平成16年(2004)
- 構造形式 3径間連続鋼斜張橋ほか
- 主要諸元 橋長936.0m 幅員20.5m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/50,000)

関連DATA

昭和6年(1931)以前は、流れの激しい所は渡し舟、流れのゆるやかな所は木橋を利用していた
(伊勢崎市 境野一夫氏所蔵)昭和6年(1931) 木橋を渡る大八車の人々
(伊勢崎市 境野一夫氏所蔵)戦時中の高欄が撤去された初代坂東大橋
(伊勢崎市 五十嵐専二氏所蔵)

白鳥の顔をイメージした尖塔が美しい坂東大橋

刀水(利根川の別称)が洋々として東流するこの地には、古くより八斗島の河岸があり、対岸の武州(埼玉県)との交流は渡し船や簡単な木橋で行われていました。そのような刀水の境を割って、長さ917m、幅10.7mという破格の長大橋梁(初代「坂東大橋」)が架橋されたのは、昭和6年(1931)6月のことでした。当初、この鋼トラス橋には上毛電鉄の鉄路が併設される予定でしたが、世界恐慌等の影響により計画が変更され、鉄道併用道路橋の計画は消滅しました。

しかし、第二次大戦後、モータリゼーションの発達に伴い軌道部分は道路として拡張されました。この初代坂東大橋の架橋の経緯については、群馬県側の利根川堤防上に設置されている「坂東大橋之碑」に詳細に記述されています。人や物流が利根川の水運を利用した時代から陸運へ代わり、群馬県と首都圏を結ぶ架け橋として伊勢崎市の発展に貢献した初代坂東大橋も、増大する交通量を処理することが困難となり、約70年の歴史をもって平成16年(2004)に4車線の新橋へその座を譲ることとなりました。

飛び立つ白鳥をモチーフとした優美なデザインの二代目坂東大橋は、全長936mの長大橋梁で群馬県が管理する橋の中では最長の橋梁です。新しい橋には、ゆったりとした歩行者用バルコニーが設けられ、広い河川敷を飛び交う野鳥を観察したり、雄大な上毛三山を望むことができます。

坂東大橋は伊勢崎市と埼玉県本庄市を結ぶばかりでなく、関越自動車道の本庄児玉インターチェンジや上越・長野新幹線の本庄早稲田駅などの高速交通網を介して本県と首都圏を結ぶ大動脈となっています。利根川の上・下流から見た坂東大橋は、二羽の白鳥が羽を広げて大空に飛び立つ様子をモチーフとしていますが、それはまさに群馬県と埼玉県が手に手をとって発展することを意味しています。



坂東大橋之碑

日光例幣使街道を支えた「渡し」の歴史を伝える橋

五料橋

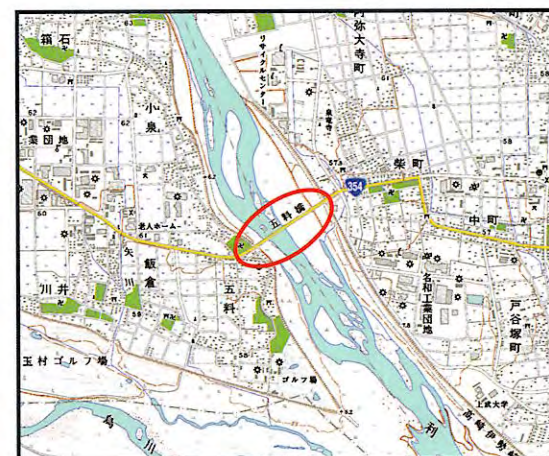
ごりょうばし



多くの車と人が行き交う

概要

- 所在地 佐波郡玉村町五料～伊勢崎市柴町
- 路線名 国道354号
- 年代 昭和46年(1971)
- 構造形式 2径間連続PCT型ラーメン箱桁橋
5径間連続PCラーメン箱桁橋
- 主要諸元 橋長544.0m 幅員9.0m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/50,000)

関連DATA



明治40年(1907)、舟8艘による舟橋だった頃の五料橋



昭和17年(1942)の五料橋。木橋を牛飼いと牛が渡る
(伊勢崎市 五十嵐専二氏所蔵)



木・鉄混合、吊り橋が併用された昭和28年(1953)頃の五料橋



五料水神祭(飯玉神社)

国道354号五料橋は、利根川を横架し玉村町と伊勢崎市とを結ぶ橋梁で、昭和46年(1971)当時の最新工法であるデビダーク方式カンチレバー工法(県内初)により架橋されました。架橋地点付近は利根川と烏川との合流点に近く、水運に恵まれていたことから、嘉永2年(1625)頃には人や物を運ぶための河岸が設置されていました。河岸は内陸河川に発達した物資輸送の港であり、五料河岸は利根川最上流の河岸でもあります。赤城南麓から産出された年貢米やその他の物資は、この河岸から積み出され江戸等に輸送されたとのこと。また、五料河岸には対岸の柴宿との間を行きかう渡しがあり、人々の交流を支えていました。このため元和2年(1616)には前橋藩が支配する五料関所(川関)が開設されました。関所は元禄10年(1697)から江戸幕府の支配となり、「入鉄砲と出女」を中心に、船舶の監視、西国から奥州方面へ旅する人々等を監視しました。当時の遺構として今でも橋の南側たもとに、関所の門の礎石2基と古井戸が残されています。

五料橋が架かる国道354号は、江戸時代には「日光例幣使街道」と呼ばれていました。これは京都を発した朝廷の使者(例幣使)が、正保4年(1647)から毎年4月に中山道を東に下り、難所碓氷峠を越え、倉賀野宿で中山道と分かれ、玉村宿、五料宿を経て、五料の渡しで柴宿に渡り、木崎、太田宿などを經由して日光東照宮に参詣したことに由来します。例幣使による日光参詣は慶応3年(1867)までの211年間続きました。

この地に伝わる伝統行事として、「水神祭」は五料の飯玉神社に合祀された水神様の祭りで、五料の渡しの船頭衆の水難除けの祈願から始まったと伝えられています。利根川に烏川が合流する五料橋下流周辺は、広大な河川敷に中州が発達し、鳥や野生の動植物の生息環境に富むことからバードウォッチングや赤城山の美しい山並みを楽しみながらの川釣りや様々なスポーツレクリエーション活動を楽しめるスポットでもあります。また、利根川の堤防上を走るサイクリングコースは自転車を楽しむ愛好家の人気を集めています。



五料関所跡

福島橋

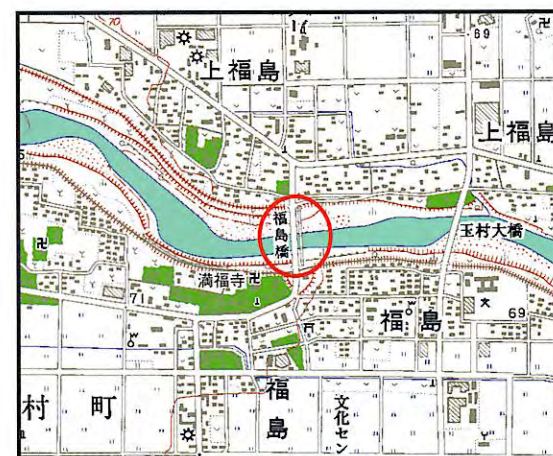
福島橋 ふくしまばし



福島橋上流からの眺望。橋の下流に玉村大橋が見える

概要

- 所在地 佐波郡玉村町福島～玉村町上福島
- 路線名 県道 高崎伊勢崎線
- 年代 昭和60年(1985)
- 構造形式 単純鋼ニールセン系ローゼ橋×2連
- 主要諸元 橋長220.0m 幅員12.5m
- 管理者 群馬県

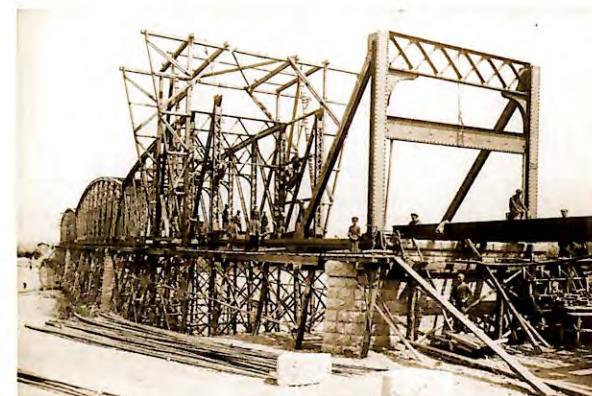


(縮尺 1/25,000)

関連DATA



大正時代の渡船場の風景



大正15年(1926)建設途中の初代福島橋



景全橋島福

完成した初代福島橋の全景



多くの車両が行き交う現在の福島橋

福島橋は、利根川により分断された前橋・伊勢崎地区と高崎・藤岡地区を連絡する橋として地域の発展と広域的な交流促進に大きく寄与している橋です。

大正15年(1936)に初代福島橋が架橋される以前は、この橋の上流約300m付近に「福島いしるの渡し」という渡し場があり、元和2年(1616)に福島番所が設置されていました。橋の架橋は地域の人々にとって自由と夢の象徴だったのでしょう、初代福島橋の開通時には、近隣から多くの住民が集まり、悲願の橋の完成を祝ったと伝えられています。

上毛三山を背にする玉村町は、利根川、烏川という2つの豊かな水運に恵まれ、歴史的遺産も豊富な田園都市ですが、昭和50年代後半からモータリゼーションの発達と急激な人口増加により都市化が著しく進行し、利根川を渡る橋梁付近で慢性的に交通渋滞が発生するようになりました。福島橋は、このような背景と橋の老朽化を解消するために昭和60年(1985)に旧橋の下流に架替られました。二代目福島橋は、ニールセン系ローゼ橋と呼ばれる構造で、躍動的な2連のアーチは地域のシンボルとなっています。このため福島橋下流に架橋された流域下水道の処理水を運ぶ水管橋についても同じ形式の橋梁とすることとなりました。アーチ形式の弦材から斜めに張ったワイヤーで橋桁を支える構造(ニールセン系)形式の橋は、県内で最初の試みであったことから多くの橋梁技術者の注目を集めました。この福島橋については、新橋の架橋以降も交通量が飛躍的に増大したことから、平成13年(2001)二代目福島橋の下流約500mに新たに玉村大橋(県道 藤岡大胡線)が架橋されました。なお、橋の南側にある満福寺には、玉村町の地名「玉」の由来となった龍の玉が祀られています。

平成大橋

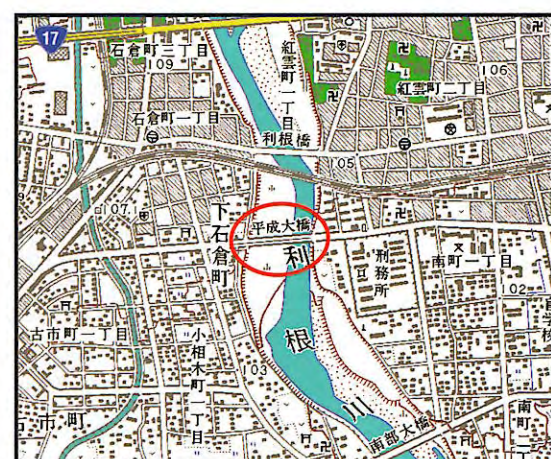
へいせいおおはし



夜空に華咲く前橋花火と平成大橋

概要

- 所在地 前橋市下石倉町～前橋市南町
- 路線名 市道00-123号
(都市計画道路江田天川線)
- 年代 平成3年(1991)
- 構造形式 2径間連続鋼斜張橋
- 主要諸元 橋長215.0m 幅員22.0m
- 管理者 前橋市



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



広々とした歩道。前橋花火大会の鑑賞スポットでもある



前橋刑務所の赤レンガと平成大橋のコントラストが美しい



賑わうだるま市をモチーフにした親柱



前橋花火大会の鮮やかさをモチーフにした親柱

前橋市の玄関口に空高くそびえ立つ白亜の塔を有する平成大橋。上越線新前橋駅から両毛線前橋駅へと向かう途中、利根川の川面に巨大なコンパスのような主塔から左右に伸びる8本のワイヤーで2,100トンの橋桁を支える姿は、絶妙のバランスを誇る天秤のようにも見えます。

昭和60年代、それまでの経済性一辺倒の考え方に対する反省から、街づくりにおいても環境や景観に対する配慮が重要視されるようになりました。平成大橋の計画にあたっては、市民に親しまれる橋づくりとして「街になじむ橋」をコンセプトに、高欄や四隅の親柱に前橋市の行事などを示す装飾が施されています。

平成3年(1991)の架橋以来、群馬大橋、南部大橋、利根橋などと共に前橋市街地の東西交通を支える橋として無くてはならない存在になった平成大橋。高層建物の群馬県庁舎と並び前橋市内のランドマークになっている平成大橋は、ぐんま県民マラソンのコースとして広く知られるようになり、前橋花火大会では雄大な花火の鑑賞スポットとしても人気を集めています。平成大橋は、架橋当時から主塔に設置されたライトアップ装置を利用して夜間ライトアップが行われていますが、夜景に浮かぶ美しいシルエットは大きな評判を呼んでいます。現在では利根川を横架する群馬大橋もライトアップを実施していますが、赤城、榛名、妙義の上毛三山を背景に夜空に浮かぶ平成大橋の白い主塔は、県都前橋のランドマークとして欠かせない風景となっています。

上毛大橋

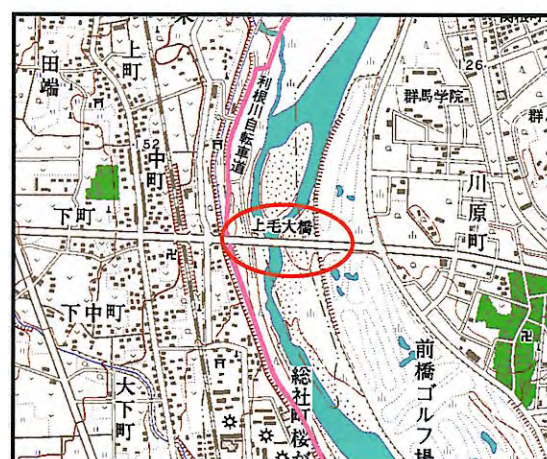
じょうもうおおはし



モダンな歩道を人々が行き交う

概要

- 所在地 前橋市川原町～吉岡町大久保
- 路線名 県道南新井・前橋線
- 年代 平成9年(1997)
- 構造形式 6径間連続PCラーメン橋
- 主要諸元 橋長534.0m 幅員20.0m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



カンチレバー架設(張出し架設)工法で施工中の上毛大橋



前橋ゴルフ場から見る上毛大橋



スポーツの拠点、群馬県総合スポーツセンター



市民が憩う敷島公園

上越国境の谷川岳や子持山などの山々を背景にして、前橋市と吉岡町を結ぶ上毛大橋は、長さ534mの堂々たる長大橋です。架橋付近の左岸河川敷には公営の前橋ゴルフ場があり、新緑の季節にはゴルフ場の芝生と橋桁が織りなすフォルムが調和し、美しい風景をつくっています。この橋の右岸側(吉岡町)は、榛名山の噴火にともなう火山噴出物で形成された台地で、左岸側の前橋市より標高が高く、吉岡町から前橋市にかけて3.7%の下り勾配となっています。

上毛大橋には広い歩道が設置され、利根川沿いに整備された利根川自転車道との連結により、通勤・通学を始め、健康増進にサイクリングを楽しむ人々のコースとして親しまれています。この橋の周辺には、景色を遮る施設等がないことから朝日の美しいポイントとしても知られ、正月元旦には初日の出を鑑賞する多くの人で賑わいます。また、上流に架橋されている国道17号・坂東橋から上毛大橋までの約5kmは鮎の管理釣り場が設定され、シーズンには多くの太公望が集ります。橋の左岸側には、県民総スポーツの拠点となっている群馬県総合スポーツセンターや松林が美しい敷島公園があり、人々のスポーツ、レクリエーションの場として親しまれています。

上毛大橋は前橋市の北西地域と吉岡町を連絡する橋梁ですが、前橋中心市街地を通らずに渋川市や伊香保方面へ連絡する道路として、また、草津や上越方面へのアクセス道路として重要な役割を担っています。



利根川緑地公園内の吉岡風力発電所

敷島橋 しきしまばし



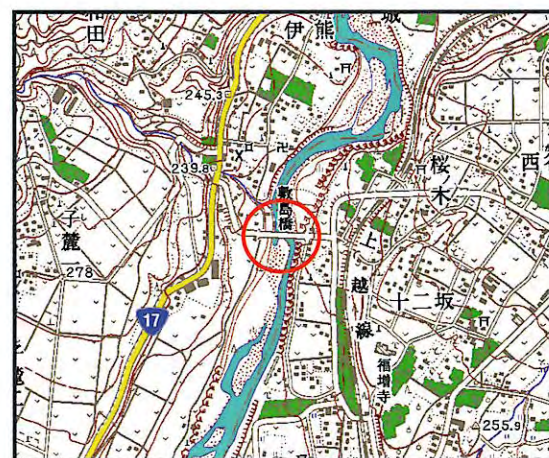
利根川を跨いで赤城村と子持村を結ぶ敷島橋。その歴史は古く、天保4年（1833年）には既に^{はねばし}刎橋が架けられていたという記録が残っています、その後幾度となく橋は架替られ、現在の橋は当時の最新工法である「押し出し工法」により昭和53年（1978）に架橋されました。橋詰めには公園が設置され、橋付近の利根川はヤマメなどの絶好の釣りポイントとして太公望に親しまれています。

概要

- 所在地 勢多郡赤城村津久田
～北群馬郡子持村上白井
- 路線名 県道 大間々子持線
- 年代 昭和53年（1978）
- 構造形式 3径間連続PC箱桁橋
- 主要諸元 橋長152.0m 幅員10.0m
- 管理者 群馬県



明治34年（1901）架橋の坂東橋（現国道17号）が移設された旧橋



（縮尺 1/25,000）

三郷用水橋梁 みさとうすいきょうりょう



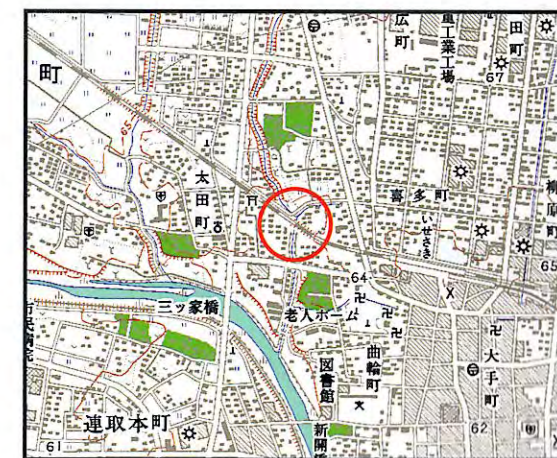
三郷用水橋梁は、明治22年（1889）の両毛線開業以来の鉄道橋で、現役のレンガ造りアーチ橋としては県内最古の橋梁です。「赤坂川橋台」「メガネ橋」とも呼ばれ、人々に愛され親しまれています。建設後約116年を経過しますが、明治の橋梁は今でも元気にその役割を果たしています。

概要

- 所在地 伊勢崎市太田町～伊勢崎市曲輪町
- 路線名 JR両毛線
- 年代 明治22年（1889）
- 構造形式 レンガ造りのアーチ橋
- 主要諸元 橋長5.6m 幅員12.6m
- 管理者 JR東日本



川面から見るアーチ



（縮尺 1/25,000）

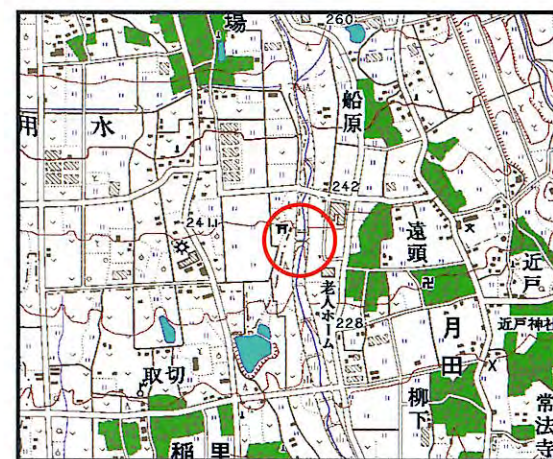
ささら橋 ささらばし



非対象デザインの主塔

概要

- 所在地 前橋市粕川町月田
- 路線名 市道 粕川4331号
- 年代 平成6年(1994)
- 構造形式 木造2径間連続斜張橋
- 主要諸元 橋長49.5m 幅員3.0m
- 管理者 前橋市



(縮尺 1/25,000)

関連DATA



木製の肌合いがやさしい橋



橋脚に描かれた郷土伝統芸能の絵



粕川温泉元気ランド



かすかわ親水公園

美しい木造の斜張橋であるささら橋は、前橋市粕川地区の中央を流れる粕川を横架する歩道橋です。この橋は河川の両岸に広がる「かすかわ親水公園」を連絡する橋として架橋されたもので、公園内をゆったりと散策を楽しむのにふさわしい親しみやすい外観の木橋です。この橋の橋名「ささら」は、^{おおよ}凡そ600年の歴史を持つ郷土の伝統芸能である獅子舞「ささら」から命名されています。この獅子舞は橋の右岸にある月田近戸神社において毎年秋に行われる「ささら祭」で奉納されるもので、天下一日流と呼ばれる独特の舞は、毎年多くの観光客を迎え奉納されています。

また、毎年9月1日に行われる「お川振り神事濁酒流し」は、粕川に濁り酒を流す神事で「粕川」という地名の「いわれ」を伝えています。この催しの行列も橋が完成してからは月田近戸神社からささら橋を通り実施されることとなりました。橋の橋脚には「ささら」をはじめとする郷土の伝統芸能を表現した絵が鮮やかに描かれ、伝統を大切にする人々の温かい心がうかがえます。

かすかわ親水公園は粕川に沿った細長い形の公園で、園内には四阿や池などが点在しています。自然のままの地形を巧みに活かした公園は、表情豊かな四季の移ろいを訪れる人々に提供しています。公園のすぐ隣には、赤城山を眺望できる広々とした温泉やスィミングを楽しめる公営の「粕川元気ランド」が併設され、プールや温泉でリフレッシュした後に自然に親しみながら散策を楽しむこともできる人気のスポットでもあります。

湯中子橋 ゆなかごばし



湯中子橋は吾妻方面と伊香保温泉街との間にある湯西沢渓谷にかかる道路橋です。渓谷にしっかりと根を下ろしたアーチ橋は力学的にも優れ、非常に安定感があります。自然環境と調和した姿は、山間の温泉郷へと人々を誘う橋として親しまれています。この橋は現場で製作された橋桁を現地で組み立てて架橋されましたが、その独創的な工法は多くの技術者の賞賛を得ました。



アーチ部の架設工事

概要

- 所在地 北群馬郡伊香保町湯中子
- 路線名 県道 伊香保小野上線
- 年代 昭和53年(1978)
- 構造形式 PCローゼ桁橋
- 主要諸元 橋長57.0m 幅員7.5m
- 管理者 群馬県



(縮尺 1/25,000)

吾妻川橋梁 あがつまがわきょうりょう



JR上越新幹線の吾妻川橋梁は、吾妻川とそれに並行して走る国道353号を一息に跨ぐ長大な鉄道橋です。橋脚の間隔が広く、支間109.52mという長さは、鉄道橋としては国内でも最大級です。すっきりと近代的なフォルムで構成されたT字型のラーメン橋で、渓谷の豊かな自然美に心地よい緊張感を与えています。また、橋梁下に残る川島浅間石は天明の浅間山噴火の凄まじさを今に伝えています。

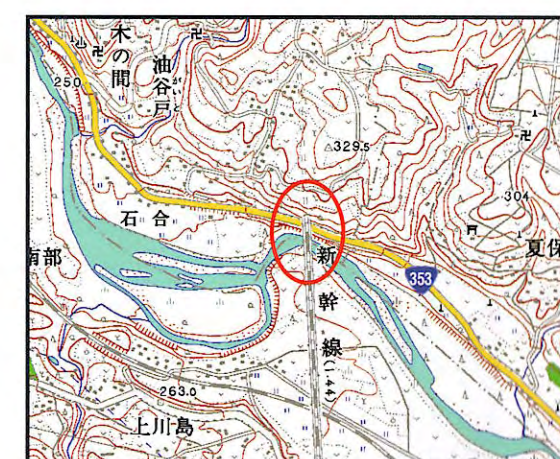
昭和53年度土木学会田中賞(作品部門)受賞。



架設中の吾妻川橋梁

概要

- 所在地 渋川市川島～北群馬郡小野上村小野子
- 路線名 JR上越新幹線
- 年代 昭和53年(1978)
- 構造形式 2径間連続PCT型ラーメン橋
- 主要諸元 橋長220.4m 幅員11.6m
- 管理者 JR東日本



(縮尺 1/25,000)